

**2025 年度
シラバス (授業計画)**

多摩リハビリテーション学院専門学校

介護福祉学科

授業科目

介護福祉学科 (Care Worker Course)

ディプロマ・ポリシー (卒業までに身につけるべき能力)

基本的な介護福祉の知識と生活支援技術を習得するとともに“優しさ”“思いやり”といった精神面の豊かさを身につけている

	講義		実習
2 学 年	カリキュラム・ポリシー	介護福祉に関する課題を主体的に解決し、介護福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育成する	
	専門科目： 人間関係とコミュニケーションⅡ／社会の理解Ⅱ／福祉経営／介護の基本C／生活支援技術EⅠ／生活支援技術EⅡ／介護過程Ⅱ／介護過程Ⅲ／介護総合演習Ⅲ／介護総合演習Ⅳ／介護実習Ⅱ／こころとからだのしくみⅡ／医療的ケア／総合介護福祉論／家庭科／	介護実習Ⅱ 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に実習施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上での必要な他の専門職の役割を学ぶことで、チームケアの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 介護実習Ⅱ【30日間】 入所施設（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム）	
1 学 年	カリキュラム・ポリシー	介護福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得し、介護福祉の理念と意義に基づいて考えられる力を育成する	
	専門科目： 人間の尊厳と自立／人間関係とコミュニケーションⅠ／社会の理解Ⅰ／相互交流／多文化共生／介護の基本B／コミュニケーション技術Ⅰ／コミュニケーション技術Ⅱ／生活支援技術AⅠ／生活支援技術AⅡ／生活支援技術BⅠ／生活支援技術BⅡ／生活支援技術CⅠ／生活支援技術CⅡ／生活支援技術DⅠ／生活支援技術DⅡ／介護過程Ⅰ／介護総合演習Ⅰ／介護総合演習Ⅱ／介護実習Ⅰ／こころとからだのしくみⅠ／発達と老化の理解／認知症の理解／障害の理解／基礎学習講座	介護実習Ⅰ 人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、サービスの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要かという個別ケアの実践の重要性を学ぶ。実習施設等の実際に体験し、その機能や基本的なケアを学ぶ。 介護実習Ⅰ-I【5日間】 通所介護・通所リハビリ施設 介護実習Ⅰ-II【8日間】 小規模多機能型居宅介護施設 介護実習Ⅰ-III【9日間】 高齢者施設実習 介護実習Ⅰ-IV【5日間】 障害者領域実習	

介護福祉学科 教育課程

	指定規則に定める 教育内容	指定規則 に定める 単位数	授業科目	授業 形式	単位数	時間数	1学年		2学年	
専門分野	人間の理解		人間の尊厳と自立	講義	2	30	2	30		
			人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30	2	30		
			人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30
	合計				6	90	4	60	2	30
	社会の理解		社会の理解Ⅰ	講義	2	30	2	30		
			社会の理解Ⅱ	講義	2	30			2	30
	合計				4	60	2	30	2	30
	人間と社会 必須選択科目		相互交流	演習	1	30	1	30		
			多文化共生	講義	2	30	2	30		
			福祉経営	講義	2	30			2	30
	合計				5	90	3	60	2	30
	介護の基本		介護の基本A	講義	4	60	4	60		
			介護の基本B	講義	4	60	4	60		
			介護の基本C	講義	4	60			4	60
	合計				12	180	8	120	4	60
	コミュニケーション技術		コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30	2	30		
			コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30	2	30		
	合計				4	60	4	60		
	生活支援技術		生活支援技術AⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術AⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術BⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術BⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術CⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術CⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術DⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術DⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術EⅠ	演習	1	30			1	30
			生活支援技術EⅡ	演習	1	30			1	30
	合計				10	300	8	240	2	60
	介護過程		介護過程Ⅰ	講義	4	60	4	60		
			介護過程Ⅱ	講義	4	60			4	60
			介護過程Ⅲ	講義	2	30			2	30
	合計				10	150	4	60	6	90
	介護総合演習		介護総合演習Ⅰ	演習	1	30	1	30		
			介護総合演習Ⅱ	演習	1	30	1	30		
			介護総合演習Ⅲ	演習	1	30			1	30
			介護総合演習Ⅳ	演習	1	30			1	30
	合計				4	120	2	60	2	60
	介護実習		介護実習Ⅰ-1	実習		40		40		
			介護実習Ⅰ-2	実習		64		64		
			介護実習Ⅰ-3	実習		72		72		
			介護実習Ⅰ-4	実習		40		40		
			介護実習Ⅰ(1~4全て含む)	実習	5	216	5	216		
			介護実習Ⅱ	実習	6	240			6	240
	合計				11	456	5	216	6	240
	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60	4	60		
			こころとからだのしくみⅡ	講義	4	60	2	30	2	30
			発達と老化の理解	講義	4	60	4	60		
			認知症の理解	講義	4	60	4	60		
			障害の理解	講義	4	60	4	60		
	合計				20	300	18	270	2	30
	医療的ケア		医療的ケア	講義演習	4	81			4	81
	合計				4	81			4	81
	介護福祉分野関連科目		基礎学習講座	講義	2	30	2	30		
			総合介護福祉論	講義	6	90			6	90
			家庭科	演習	1	30			1	30
	合計				9	150	2	30	7	120
総 合 計					99	2037	60	1206	39	831

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修選択科目	人間の尊厳と自立	鈴木健二郎	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援技術に人間の尊厳と自立がどのように活かされているのかを学び、具体的な生活場面の事例をもとに、高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について基本となる考え方を学ぶ		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	人間の尊厳と自立（自律）とは何かを理解し、「自立支援」を実践できるようになる。		
授業計画	第 1 回 人間の尊厳と人権・福祉理念 第 2 回 尊厳と自立をめぐる規定 第 3 回 社会福祉領域における歴史 第 4 回 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 第 5 回 権利擁護と人権尊重 第 6 回 高齢者虐待の現状と課題 第 7 回 日本におけるハンセン病への対応 第 8 回 ワーク「自分の尊厳と他者の尊厳」 第 9 回 自己実現を支えるための取組ワーク 第 10 回 自立支援の視点と方法 自立のあり方 第 11 回 介護における自立支援 必要な視点 第 12 回 意欲と動機付け 第 13 回 尊厳の保持と自立 自立支援の関係性 第 14 回 事例から考える ふりかえり 第 15 回 定期試験 まとめ		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 100% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護を実践する場面では尊厳や人権が侵されることがあります。この授業でしっかりと尊厳と自立について理解してください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅠ	藤枝 幹大	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	人間と人間関係について知り、さまざまな対人関係におけるコミュニケーションのあり方を概観し理解を深めいく。さらにできれば、自分のコミュニケーションの取り方から自分の人生の生き方までをも考察してみる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・人間と介護の関係を説明できる。 ・コミュニケーションの特性や構造を説明できる。 ・人間関係形成のためのコミュニケーションを行うことができる。 ・円滑なコミュニケーションを図る上での配慮ができる。		
授業計画	第1回 人間の誕生と介護の関係 第2回 自分と他者の理解 第3回 人間関係形成のために必要なこと 第4回 パーソナリティの発達と人間関係 第5回 社会性の発達と人間関係 第6回 社会心理学からみた人間関係 第7回 対人認知と対人感情 第8回 集団のなかの人間関係 第9回 人間関係とストレス 第10回 コミュニケーションの基本構造 第11回 コミュニケーションの手段 第12回 非言語的コミュニケーション 第13回 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション 第14回 対人援助における基本的態度 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解第2版」中央法規出版		
参考書	中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁樹算男・立花正夫・箱田裕司〔編〕 『心理学辞典』 有斐閣		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	良好な人間関係を築くためには自分の行動をコントロールする必要があります。そのためには、自分の内面を深く知り、受け入れることが重要です。時にそれは苦しみを伴うことがありますので、がんばりましょう。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解 I	山下望	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	社会福祉も大転換点にあり、その様相を変貌させている。社会福祉の歴史、思想さらに社会保障制度の総合学習を基礎として、現代の求める福祉とは何かをについて、具体的な事例等を活用し理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行っている理由と制度の概要を理解し介護福祉士として制度の原理原則を理解した上で支援を行えるようになる。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション - 社会と私は何か関係があるだろうか生活と福祉という視点で考えてみる。 第 2 回 生活と福祉Ⅰ 社会保障の大きな枠組み 第 3 回 生活と福祉Ⅱ 医療保障制度・後期高齢者医療制度など 第 4 回 生活と福祉Ⅲ 雇用・労災保険 第 5 回 生活と福祉Ⅳ 各種社会扶助の概要 第 6 回 生活と福祉Ⅴ 成年後見制度 第 7 回 生活と福祉Ⅵ 日常生活自立支援事業 第 8 回 社会保障制度Ⅰ 生活保護制度（理念や原理原則） 第 9 回 社会保障制度Ⅱ 生活保護制度（保護の原則） 第 10 回 社会保障制度Ⅲ 人口問題と財政問題 第 11 回 社会保障制度Ⅳ 虐待防止や消費者保護 第 12 回 社会保障制度Ⅴ 医療法など 第 13 回 社会保障制度Ⅵ 社会手当・その他の制度 第 14 回 社会保障制度Ⅶ 基本的な仕組み権利や生活を支える制度 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解第 2 版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：試験 100% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。		
教員紹介	障害者施設において統括施設長として社会福祉の制度を活用しながら利用者その人が自分らしく暮らせるように支援をしている。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必須専門科目	相互交流	庄司麻美・鎌田小百合・鈴木健二郎	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	クラス間や学科間、学校教員と交流の場を通じて基本的な社会性を学び、適応的な対人交流の経験をする。介護福祉士として対象者や家族との基本的な関わり方につなげる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	個人と集団での演習を通して新しい人間関係の構築を図り、互いに理解し合うことで他者を尊重する意識を持てるようになる。		
授業計画	第1回オリエンテーションの意義と役割 第2回～第4回レクリエーションにおけるコミュニケーション技術 第5回～第8回レクリエーション企画と計画の方法 第9回～10回 レクリエーションの実行と見直し 第11回～第12回レクリエーション発表 第13回～第14回レクリエーション発表ふりかえり 第15回まとめ		
教科書	とくになし		
参考書	とくになし		
成績評価の方法・基準	評価方法：課題提出 100%（企画書と実施報告書） 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者が楽しめるようなレクリエーションを考えるようにし、主役は対象者であることを意識し自己満足にならないように気を付けること。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の作業療法士、介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	多文化共生	鈴木 健二郎 他	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	授業の中で異なった文化を持つ学生同士が交流学習することを基本とし、グループワーク演習などを通じて互いの文化的違いを知り認め合い、新しい生活環境を作っていける考え方を皆で考えていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	異文化を持つ他者だけでなく自分と違う意見や考え方を持つ人を受入れ、ともに考えながら問題解決できる対人援助職としての姿勢を身に付ける。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション等 第 2 回 多文化理解ワーク 第 3 回～第 5 回 聾文化 手話体験 第 6 回 多文化理解ワーク 第 7 回～第 9 回 多文化と異国文化理解とはグループワーク演習 第 10 回～第 12 回 発表予備含む 第 13 回～第 14 回 多文化理解ワーク 第 15 回 まとめ		
教科書	とくになし		
参考書	適宜プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：課題提出 100% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	あらゆる人と共生していくことが、少子高齢化や社会保障費の増大問題などの解決につながります。日本だけの問題ではないことを自覚し未来に継続可能な社会の在り方を考えましょう。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本 A	竹内克	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念・役割・理念を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・現代の介護福祉の課題と理念を説明できる ・介護福祉士の様々な場面での役割と機能を理解する ・介護福祉士の専門性と理念を理解し、専門職としての態度を身に付ける		
授業計画	第 1 回 介護とは、定義 第 2 回 介護福祉士の状況 第 3 回 求められる役割の増大 第 4 回 求められる介護福祉士像① 第 5 回 求められる介護福祉士像② 第 6 回 介護福祉士を支える団体 第 7 回 介護福祉の基本理念① 第 8 回 介護福祉の基本理念② 第 9 回 介護福祉の倫理① 第 10 回 介護福祉の倫理② 第 11 回 介護福祉の倫理③ 第 12 回 介護福祉の倫理④ 第 13 回 日本介護福祉士会倫理綱領等 第 14 回 まとめ 第 15 回 中間試験 第 16 回 介護概念の変遷① 第 17 回 介護概念の変遷② 第 18 回 介護概念の変遷③ 第 19 回 介護概念の変遷④ 第 20 回 介護概念の変遷⑤ 第 21 回 介護概念の変遷⑥ 第 22 回 地域包括ケアシステム① 第 23 回 地域包括ケアシステム② 第 24 回 介護予防 第 25 回 医療的ケア 第 26 回 人生の最終段階の支援 第 27 回 災害時の支援① 第 28 回 災害時の支援② 第 29 回 まとめ 第 30 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 50% 定期試験 50% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施します。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本 B	鈴木健二郎	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法。介護を必要とする人の多様な生活の理解をして介護を必要とする人の生活を支える仕組みについて学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ ICF の視点に基づいた視点で支援方法を検討できるようになる ・ 介護を受ける方の生活歴や個性に合わせた対応ができるような視点を持つ ・ 介護サービス、フォーマル、インフォーマルなどの様々な社会資源があることを理解し、生活全般の支援方法を検討できるようになる		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 自立に向けた介護 1 第 3 回 自立に向けた介護 2 第 4 回 自立に向けた介護 3 第 5 回 ICF の考え方 1 第 6 回 ICF の考え方 2 第 7 回 ICF の考え方 3 第 8 回 自立支援とリハビリテーション 1 第 9 回 自立支援とリハビリテーション 2 第 10 回 自立支援とリハビリテーション 3 第 11 回 自立支援と介護予防 1 第 12 回 自立支援と介護予防 2 第 13 回 自立支援と介護予防 3 第 14 回 ふりかえり 第 15 回 中間試験まとめ 第 16 回 利用者の生活を支えるしくみ 1 第 17 回 利用者の生活を支えるしくみ 2 第 18 回 利用者の生活を支えるしくみ 3 第 19 回 生活を支えるフォーマルサービス 1 第 20 回 生活を支えるフォーマルサービス 2 第 21 回 生活を支えるフォーマルサービス 3 第 22 回 生活を支えるインフォーマルサービス 1 第 23 回 # 2 第 24 回 生 # 3 第 25 回 # 4 第 26 回 地域連携 1 第 27 回 地域連携 2 第 28 回 地域連携 3 第 29 回 事例から考えるふりかえり 第 30 回 定期試験まとめ		
教科書	前期「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第 2 版」 後期「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II 第 2 版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 50 パーセント 定期試験 50 パーセント 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですがグループワーク演習も行います、積極的な参加をお願いします。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術 I	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を理解し、介護を必要とする方とのコミュニケーションを図る際の留意点などを学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・コミュニケーションの意義・目的・役割を説明することができる ・コミュニケーション技術の基本について説明することができる。 ・チームの一員として「情報伝達」の重要性を理解し、その留意点を説明することができる。		
授業計画	第 1 回 介護におけるコミュニケーションとは 第 2 回 援助関係とコミュニケーション 第 3 回 コミュニケーション技術① 傾聴と距離 第 4 回 コミュニケーション技術② 受容と共感 第 5 回 コミュニケーション技術③ 言語・非言語・準言語 第 6 回 コミュニケーション技術④ 動機付け 第 7 回 コミュニケーション技術⑤ リフレーミング 第 8 回 コミュニケーション技術⑥ 意思決定の支援 第 9 回 集団におけるコミュニケーション技術 第 10 回 チームにおけるコミュニケーション① 意義・目的 第 11 回 チームにおけるコミュニケーション② 報・連・相 第 12 回 チームにおけるコミュニケーション③ 記録 第 13 回 チームにおけるコミュニケーション④ 記録 第 14 回 情報の活用と管理のための技術 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」 中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布します		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習とグループにおいて様々な意見交換をしながら演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術Ⅱ	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・利用者の抱える障害の特徴を理解し、その障害に合わせたコミュニケーション方法についての基礎を学び、演習を通して習得します。 ・家族と協働する上での必要な知識と方法を学び、状況に応じたコミュニケーションの必要性を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・利用者一人一人の特徴を意識したコミュニケーションを実践することができる ・利用者家族と関係を構築し、家族の状態に応じたコミュニケーションの方法を理解することができる。		
授業計画	第 1 回 会議・議事進行・説明・事例検討に関する技術 第 2 回 コミュニケーション障害への対応の基本 第 3 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害 第 4 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援② 聴覚障害 第 5 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③ 構音障害・失語症 第 6 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援④ 認知症 第 7 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑤ うつ・抑うつ 第 8 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑥ 統合失調症・知的障害 第 9 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑦ 発達障害 第 10 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑧ 高次脳機能障害 第 11 回 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑨ 重症心身障害 第 12 回 家族とのコミュニケーション① 関係づくり 第 13 回 家族とのコミュニケーション② 助言・指導・調整 第 14 回 家族とのコミュニケーション③ 家族のストレスへの対応 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規出版		
参考書	「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解」中央法規出版 その他配布資料		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人演習とグループでの様々な意見交換を行いながら、演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 A I	浦島秀之	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	尊厳保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行う知識、技術を習得する。その人らしく生活するための手段や生活が楽しみとなることを目指した「身支度」の介護のプロセスと方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ 尊厳の保持や利用者の個別性に配慮し、自立に向けた生活支援の判断と実践ができる ・ 生活習慣の中で装いの楽しみが見いだせるような配慮ができる ・ 身支度の意味と生活にどんな影響を及ぼすのかを説明できる ・ 身体状況に合わせた衣類交換ができる ・ 口腔ケアの意味について説明できる ・ 身体状況に応じた口腔ケアを選択し、実施できる		
授業計画	第1回 身支度の介護①身支度の意義と目的 第2回 身支度の介護②個々に応じた「装い・整容」① 第3回 身支度の介護③個々に応じた「装い・整容」② 第4回 身支度の介護④口腔の介護① 第5回 身支度の介護⑤口腔の介護② 第6回 身支度の介護⑥口腔の介護③ 第7回 身支度の介護⑦衣服着脱の介助① 第8回 身支度の介護⑧衣服着脱の介助② 第9回 身支度の介護⑨衣服着脱の介助③ 第10回 身支度の介護⑩衣服着脱の介助④ 第11回 身支度の介護⑪身支度における多職種との連携 第12回 まとめ 第13回 実技総復習（実技試験） 第14回 実技総復習（実技試験） 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個々の好みや希望を理解しながら援助方法を学んでいきましょう 授業はズボン・胸元が見えないシャツ・運動靴（サンダル不可） 演習時は2グループに分けて実施します。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 AⅡ	平田由紀子 木村欣司	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	利用者にとってよりよい食事とは何かについて学習し、食事に関する基礎的な知識を習得する。 身心状態のレベルを理解し、自立に向けた適切な食事介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、習得する。 食後の口腔ケアの意義と身心状態に応じた口腔ケアを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	食事の意義と目的について理解し、栄養と食事の基礎知識を習得する。「おいしく食べる事」を支える介護の工夫や、環境づくり、好みへの配慮、調理の工夫、福祉用具の活用について理解できる。食事の姿勢、状況に合わせた食事介助方法を理解し、リスクマネジメントを考え、その予防実施ができる。口腔の清潔の意義について理解できる。		
授業計画	第1回 利用者の食事の意義と介護者の役割 第2回 自立に向けた食事の介護・口腔 第3回 食事のアセスメント 第4回 食事形態の工夫① 第5回 食事形態の工夫② 第6回 利用者の食事介助①環境面の留意点 第7回 第8回 利用者の食事介助②食事介助時の留意点 第9回 認知症高齢者の食事介護 第10回 視覚に障害を持つ利用者の食事介護 第11回 食事の介護における多職種との連携 第12回 誤嚥の予防と対応 まとめ 第13回 第14回 実技総復習 実技試験 第15回 定期試験 筆記試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業時タオルを持参すること 普段、自分が食べている食材の歯ごたえや飲み込みやすさなどを意識して観察しながら食べましょう		
教員紹介	臨床経験のある介護福祉士・言語聴覚士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 B I	浦島秀之	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	排泄に関する基礎的な知識と技術を身につけ、尊厳を保持や個性を重要視しながら、利用者の心身の状況に応じた適切な排泄方法を実践できる		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	排泄の意義と目的・メカニズム等について理解し、根拠について説明できる力を身につける。 必要な福祉用具を選択・活用し、障害に応じた排泄の支援ができる。トイレ・ポータブルトイレ・差し込み便器・おむつ等の使用方法を理解し、利用者の状態・状況に応じて選択し実践できる。 失禁時や認知症の人に対して適切な対応がとれる。 安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、尊厳を保持し自立に向けた排泄介護を実践できる。		
授業計画	第1回 排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム① 第2回 排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム② 第3回 気持ち良い排泄を支える介護 介護の工夫と環境づくり 第4回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法① 第5回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法② 第6回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法③ 第7回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法④ 第8回 利用者の状況に合わせた排泄介助の技法⑤ 第9回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意① 第10回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意② 第11回 他職種の役割と協働・観察の視点・各職種との役割と協働 第12回 まとめ 第13回 実技総復習(実技試験) 第14回 実技総復習(実技試験) 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50% 実技試験50% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分が介助される立場になって実践できるように心がけましょう ズボン・胸元が見えないシャツ・運動靴（サンダル不可） 演習時 2 グループに分けて実施します。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 BⅡ	浦島秀之	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士に必要な、入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を身に着ける。個人のプライバシーに配慮しながら「楽しみで気持ちの良い入浴」にする事ができるよう知識、技術、観察力を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	入浴の意義と目的について理解し、清潔保持の重要性と必要な福祉用具を選択・活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴や清潔保持の支援ができる。 安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしさや楽しみとなる入浴について考え実践できる。 個々の背景を理解し、観察を行い声掛けや誘導方法を実践できる。		
授業計画	第 1 回 入浴の意義と目的 第 2 回 入浴に関する利用者のアセスメント 第 3 回 利用者の状況・状態に応じた介助の留意点① 第 4 回 利用者の状況・状態に応じた介助の留意点② 第 5 回 安全な入浴・清潔保持の介助方法① 第 6 回 安全な入浴・清潔保持の介助方法② 第 7 回 安全な入浴・清潔保持の介助方法③ 第 8 回 利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法① 第 9 回 利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法② 第 10 回 利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法③ 第 11 回 他の職種の役割と協働 第 12 回 まとめ 第 13 回 実技総復習（実技テスト） 第 14 回 実技総復習（実技テスト） 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50% 実技試験50% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分が介助される立場になって実践できるように心がけましょう 演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと 演習は 2 グループに分けて実施します。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 C I	鈴木 健二郎	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として「移動」における介護技術の根拠を理解し、個々に対応できる応用力を学び、現場での実践で活用できる技術と、能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	移動の意義及び目的を理解し、自分の言葉で表現できる 移動介助を必要とする人に、適切な介護技術の選択・実施・根拠の説明・個別性を考慮した対応ができる。 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を理解しながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第 1 回 「移動」の意義と目的の理解 第 2 回 安全に目的を果たす移動を支える介護 第 3 回 安楽な「体位・姿勢」の保持① 第 4 回 安楽な「体位・姿勢」の保持② 第 5 回 「車いすでの移動」を支える介護① 第 6 回 「車いすでの移動」を支える介護② 第 7 回 安全な「歩行」を支える介護① 第 8 回 安全な「歩行」を支える介護② 第 9 回 身体機能が低下している人「移動」介護① 第 10 回 身体機能が低下している人「移動」介護② 第 11 回 身体機能が低下している人「移動」介護③ 第 12 回 移動の介護における多職種との連携 まとめ 第 13 回 実技総復習 実技試験 第 14 回 実技総復習 実技試験 第 15 回 定期試験 筆記試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 実技試験 50% S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと 校外での演習もあります。 演習は 2 グループに分けて実施します。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 CⅡ	浦島秀之	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	自立に向けた居住環境の整備を学ぶ。対象となる人の生活上のニーズの把握から進め、具体化していく方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	対象となる人の生活の状況を整理し、能力を活用・発揮し自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 生活空間の構成要素と意義・目的を理解できる。 ICFの視点にもとづいて、居住環境を生活の流れの中で理解できる 介護保険で利用できる住宅改修や福祉用具を理解する 自立に向けた居住環境の整備に向けて、他職種との連携による解決策を学ぶ。		
授業計画	第1回 自立に向けた住環境の整備①（住まいの役割と機能） 第2回 自立に向けた住環境の整備②（高齢者・障害者の住まい） 第3回 自立に向けた住環境の整備③（生活空間）（生活と起居様式） 第4回 自立に向けた住環境の整備④（生活空間）（加齢と生活空間） 第5回 自立に向けた住環境の整備⑤（生活空間）（加齢と生活空間） 第6回 自立に向けた住環境の整備⑥（快適な室内環境）① 第7回 自立に向けた住環境の整備⑦（快適な室内環境）② 第8回 自立に向けた住環境の整備⑧（快適な室内環境）③ 第9回 自立に向けた住環境の整備⑨（安全に暮らすための生活環境） 第10回 自立に向けた住環境の整備⑩（住宅改修と介護保険制度） 第11回 自立に向けた住環境の整備⑪（多職種との連携） 第12回 自立に向けた住環境の整備⑫（福祉用具の重要性） 第13回 自立に向けた住環境の整備⑬（福祉用具の重要性） 第14回 自立に向けた住環境の整備⑭ まとめ 第15回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 70％ 課題提出 30％ 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	日本の住まいや環境を理解するよう努めましょう 演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士・福祉住環境コーディネータ2級を持つ作業療法士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 D I	鈴木健二郎・鈴木真生・西片裕・山崎暁・その他教員	1 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援とは何かを考え、人それぞれの価値観があることを常に考え、その人らしく生活ができるよう専門職として援助できる技術を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	尊厳を守るという観念から、その人らしさ見出し、どのような状態でもその人の自立・自律を尊重し、能力を引き出し、見守る技術を養う。専門職が行う過程で常に安全・安楽な技術を用いることができるよう、基本の技術を修得する		
授業計画	第 1 回 利用者の状態の状況に応じた生活支援技術とは 第 2 回 障害に応じた生活支援技術 I 肢体不自由に応じた介護 第 3 回 障害に応じた生活支援技術 I 視覚障害に応じた介護 第 4 回 障害に応じた生活支援技術 I 聴覚・言語障害に応じた介護 第 5 回 障害に応じた生活支援技術 I 重複障害（盲ろう）に応じた介護 第 6 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）心臓・呼吸器機能障害に応じた介護 第 7 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）腎臓・肝臓機能障害に応じた介護 第 8 回 障害に応じた生活支援技術 I（内部障害）膀胱・直腸・小腸・HIV による免疫機能障害に応じた介護 第 9 回 障害に応じた生活支援技術 I 重症心身障害に応じた介護 第 10 回 障害に応じた生活支援技術 II（知的障害に応じた介護） 第 11 回 障害に応じた生活支援技術 II（精神障害に応じた介護） 第 12 回 障害に応じた生活支援技術 II（高次機能障害に応じた介護） 第 13 回 障害に応じた生活支援技術 II（発達障害に応じた介護） 第 14 回 難病の人に応じた生活支援技術 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 6・8 生活支援技術 I・III 第 2 版」 「最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 50％ 小テスト 50％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	人の生活を受け入れるのと同じく仲間の意見を受け入れ、理解するように努めましょう		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士・言語聴覚士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 DⅡ	浦島秀之	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	睡眠・終末期の介護について、介護福祉士としての役割を果たせるよう技術を身につける。個々の利用者の人生観や価値観を理解し、生活の背景にも目を向けながら、その人らしく快適に充実した時間を過ごせるよう介護福祉士としての力量をつける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につなげられるよう、その人の生活全般を理解する観察力・洞察力を養う		
授業計画	第 1 回 休息・睡眠とは 第 2 回 快適な睡眠の一連の流れ 第 3 回 安眠を阻害する要因 第 4 回 安眠を促す介護をするために介護福祉職がすべきこと 第 5 回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具① 第 6 回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具② 第 7 回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具③ 第 8 回 休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具④ 第 9 回 休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）① 第 10 回 休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）② 第 11 回 休息・睡眠における多職種連携の必要性 第 12 回 まとめ 第 13 回 実技総復習（実技試験） 第 14 回 実技総復習（実技試験） 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 実技試験 50% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと 演習は 2 グループに分けて実施します。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程 I	竹内 克	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護過程の意義・目的を理解し、全体像を説明できる。 ・介護過程のアセスメントで求められる思考方法を理解できる ・他科目で学んだ知識を統合することの重要性が理解できる		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション/介護過程の意義と目的 第 2 回 介護過程の全体像 (1) 第 3 回 介護過程の全体像 (2) 第 4 回 介護過程の全体像 (3) 第 5 回 介護過程の全体像 (4) 第 6 回 介護過程の全体像 (5) 第 7 回 介護過程の展開と学習科目との関連 第 8 回 アセスメント(情報収集)とは 第 9 回 ICF (1) 第 10 回 ICF (2) 第 11 回 ICF を活用した情報収集(1) 第 12 回 ICF を活用した情報収集(2) 第 13 回 解釈・関連付け・統合化とは 第 14 回 まとめ 第 15 回 中間試験 第 16 回 アセスメントの実際 (1) 第 17 回 アセスメントの実際 (2) 第 18 回 アセスメントの実際 (3) 第 19 回 介護計画の立案 第 20 回 介護目標の設定 (1) 第 21 回 介護目標の設定 (2) 第 22 回 介護目標の設定 (3) 第 23 回 具体的内容・方法 (1) 第 24 回 具体的内容・方法 (2) 第 25 回 具体的内容・方法 (3) 第 26 回 介護計画の実施 第 27 回 介護計画の評価 第 28 回 介護計画の修正 第 29 回 まとめ 第 30 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布 「最新・介護福祉士養成講座 1～8、11～14」も適宜使用		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 45% 定期試験 45% 提出課題 10% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	学生の生活背景により、思考内容が異なることなることを意識して講義に参加してください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習 I	竹内 克	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護実習の意義・目的を理解する。 ・実習において介護実践は各領域の学びを統合する必要性があることを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護実習行う事業所種別を説明することができる ・実習前、実習中、実習後各段階においてに何を行うのかを理解することができる。 ・演習を通して学習してきた知識・技術・態度を統合する意義を理解できる		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 介護総合演習の目的 第 2 回 介護実習の意義と目的 第 3 回 介護実習の流れ 第 4 回 実習先の種類① 通所介護・通所リハビリテーション 第 5 回 学生作成書類について① 実習前・中・後 第 6 回 学生作成書類について② 個人調査票作成 第 7 回 学生作成書類について③ 実習目標・個人調査票作成 第 8 回 学生作成書類について④ 実習目標・個人調査票作成 第 9 回 学生作成書類について⑤ 実習目標・個人調査票作成 第 10 回 学生作成書類について⑥ 学生作成書類の作成方法 第 11 回 学生作成書類について⑦ 学生作成書類の作成方法 第 12 回 実習場面を想定した総合演習① 第 13 回 実習場面を想定した総合演習② 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	成績評価：定期試験 70% 提出課題 30% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義時間内に実習関係書類の作成が終わらない可能性があるため、提出期限を意識して、各自行動をしてください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅱ	竹内 克	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・実習を振り返り、学校で習得した内容が実習でどのように実践できたのかを振り返り、自己の課題を明確化しにし、介護福祉士としての知識・技術・態度を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護実習Ⅰを振り返り、自己の傾向を理解し、課題を明確化できる。 ・実習施設概要と利用者の生活ニーズを整理、理解でき介護福祉士としての役割を明確化できる。		
授業計画	第 1 回 介護実習Ⅰ・Ⅰの振り返り (1) 評価からの振り返り 第 2 回 介護実習Ⅰ・Ⅰの振り返り (2) 実習報告会とは 第 3 回 介護実習Ⅰ・Ⅰの振り返り (3) 実習報告書作成 第 4 回 介護実習Ⅰ・Ⅰの振り返り (4) 実習報告書作成 第 5 回 介護実習Ⅰ・Ⅱ～Ⅳについて① 小規模多機能型居宅介護、GH 第 6 回 介護実習Ⅰ・Ⅱ～Ⅳについて② 特養、老健、介護医療院 第 7 回 介護実習Ⅰ・Ⅱ～Ⅳについて③ 障害者支援施設 第 8 回 学生作成書類について① 実習目標・個人調査票作成 第 9 回 学生作成書類について② 実習目標・個人調査票作成 第 10 回 学生作成書類について③ 実習目標・個人調査票作成 第 11 回 学生作成書類について④ 実習目標・個人調査票作成 第 12 回 学生作成書類について⑤ 実習目標・個人調査票作成 第 13 回 学生作成書類について⑤ 学生作成書類の作成方法 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 他科目使用テキスト（必要があれば事前に伝えます）		
成績評価の方法・基準	成績評価：定期試験 70％ 提出課題 30％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義時間内に実習書類の作成が終わらない可能性があるため、提出期限を意識して、各自行動をしてください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅰ	鈴木健二郎 竹内克 浦島秀之	Ⅰ-Ⅰ～Ⅰ-Ⅳ (5 単位 216 時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅰ 1 年生前期 7 月末～8 月 通所介護・通所リハビリ施設 5 日間 *実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表 60% 課題提出 40%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ・Ⅱ	鈴木健二郎 竹内克 浦島秀之	Ⅰ・Ⅰ～Ⅰ・Ⅳ (5 単位 216 時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ・Ⅱ 1 年生後期 1 月、2 月 地域密着型介護施設（小規模多機能型居宅介護施設・認知症対応型共同生活介護施設）8 日間 *実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表 60% 課題提出 40%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅲ	鈴木健二郎 竹内克 浦島秀之	Ⅰ・Ⅰ～Ⅰ・Ⅳ (5 単位 216 時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅲ 1 年生後期 1 月、2 月 介護保険施設（老人福祉施設、有料老人 ホーム、 介護老人保健施設等）9 日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表 60％ 課題提出 40％		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ・Ⅳ	鈴木健二郎 竹内克 浦島秀之	Ⅰ・Ⅰ～Ⅰ・Ⅳ (5 単位 216 時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ・Ⅳ 1 年生後期 2 月 障害者施設（生活介護施設等 5 日間） *実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表 60% 課題提出 40%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅠ	千葉 真規子	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	基本的な人体の構造と機能の知識を身につける。介護サービスを行う際に必要な基礎的な知識を理解し、介護の場面に応じた援助や観察ができるように根拠も踏まえて学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護技術の根拠となる人体の解剖・生理が理解できる ・利用者の支援に必要なとする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する		
授業計画	第1回 「健康とは」何か 第2回 からだのしくみ身体各部 第3回 からだのしくみ脳・神経 第4回 からだのしくみ感覚器 第5回 からだのしくみ呼吸器 第6回 からだのしくみ循環器 第7回 からだのしくみ消化器① 第8回 からだのしくみ消化器② 第9回 からだのしくみ泌尿器 第10回 からだのしくみ関節 第11回 からだのしくみ骨 第12回 からだのしくみ筋肉 第13回 からだのしくみ内分泌 第14回 からだのしくみ血液 第15回 中間試験 第16回 移動の基礎的知識 第17回 移動のしくみ 第18回 心身機能低下と移動 第19回 移動に関する観察 第20回 身じたくの基礎的知識① 第21回 身じたくの基礎的知識② 第22回 身じたくのしくみ 第23回 心身機能低下と身じたく 第24回 身じたくに関する観察 第25回 食事の基礎的知識① 第26回 食事の基礎的知識② 第27回 食事のしくみ 第28回 心身機能低下と食事 第29回 食事に関する観察 第30回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ」 第2版 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 50% 後期試験 50% 基準：S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59点以下) ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	からだの医学的な知識を学習します。医学の難しい言葉もでてきます。復習をしっかりとってください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ看護師		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	1 年後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅡ (1)	千葉 真規子	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援を行う際に必要な知識を理解し、介護の場面に応じた観察ができるように根拠を学ぶ。生命を維持する仕組みについて学び、介護ケアにおける留意点を学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・利用者の支援に必要とする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる		
授業計画	第1回 入浴・清潔の基礎的知識 第2回 入浴・清潔のしくみ 第3回 心身機能低下と入浴・清潔 第4回 入浴に関する観察 第5回 清潔に関する観察 第6回 排泄の基礎知識 第7回 排泄のしくみ 第8回 心身機能低下と排泄 第9回 排泄に関する観察① 第10回 排泄に関する観察② 第11回 休息・睡眠の基礎知識 第12回 休息・睡眠のしくみ 第13回 心身機能低下と休息睡眠 第14回 休息・睡眠に関する観察 第15回 定期試験 1 年後期分と 2 年前期分で 4 単位とする		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ」 第 2 版 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 100% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	からだの医学的な知識を学習します。医療の難しい言葉もでできます。そのつど復習をする習慣をつけてください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ看護師		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	発達と老化の理解	堀口 典子 藤枝 幹大	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の成長と発達の基本的知識を学び、各ライフサイクルにおける特徴と発達課題及び特徴的な疾患を理解する。老化や加齢に伴う身体機能の変化が日常生活にどのような影響があるかを学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・老化や加齢に伴う身体的機能の変化が、日常生活にどのような影響があるのか学ぶことができる ・生活習慣病の基本的知識を理解できる ・内部障害を含めた高齢者に多い疾患や留意点を学ぶことができる ・他職種との連携の必要性を学ぶことができる		
授業計画	第 1 回 成長と発達の基礎的理解① 第 2 回 成長と発達の基礎的理解② 第 3 回 成長と発達の基礎的理解③ 第 4 回 発達段階と発達課題① 第 5 回 発達段階と発達課題② 第 6 回 発達段階と発達課題③ 第 7 回 発達段階と発達課題④ 第 8 回 発達段階と発達課題⑤ 第 9 回 発達段階と発達課題総論 第 10 回 老年期の特徴① 第 11 回 老年期の特徴② 第 12 回 老年期の特徴③ 第 13 回 老年期の特徴④ 第 14 回 老年期の特徴総論 第 15 回 中間試験 第 16 回 老化期の変化と生活① 第 17 回 老化期の変化と生活② 第 18 回 老化期の変化と生活③ 第 19 回 老化期の変化と生活④ 第 20 回 老化期の変化と生活⑤ 第 21 回 老化期の変化と生活⑥ 第 22 回 高齢者と健康① 第 23 回 高齢者と健康② 第 24 回 高齢者と健康③ 第 25 回 高齢者と健康④ 第 26 回 高齢者と健康⑤ 第 27 回 高齢者と健康⑥ 第 28 回 高齢者と健康⑦ 第 29 回 高齢者と健康⑧ 第 30 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 第 2 版 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 80% 提出課題 20% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	・臨床経験を持つ看護師 ・心理学の修士の学位と臨床心理士と公認心理士の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は 25 年以上、心理臨床経験は 20 年以上になります。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	認知症の理解	中村晃一・庄司麻美・鎌田小百合	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	認知症を医学的・心理的側面から原因疾患及び段階に応じた変化や症状を理解する。家族への支援、地域の役割を学び、地域で認知症になっても暮らし続けることができる生活支援ができるように、個別性に沿ったアセスメントを行い、本人中心とした認知症ケアの実践を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ 認知症を取り巻く背景や施策、認知症のある人の状況が理解できる ・ 認知症のある人の特性を踏まえて支える介護について根拠となる知識を深めることができる。 ・ 家族への支援や地域でのサポート体制が理解できる		
授業計画	第 1 回 認知症とは何か		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

がつか 学科	りしゅうたいしょう 履修対象	りしゅうじき 履修時期	じゅぎょうほうほう 授業の方法
かいこかくしがつか 介護福祉学科	がくねん 1学年	こうき 後期	こうぎ 講義
こうぎくぶん 講義区分	じゅぎょうかもくめい 授業科目名	たんとくきょういん 担当教員	たんいじかんすう 単位・時間数
ひつしゅうせんもんかもく 必修専門科目	しょうがいりかい 障害の理解	いわととおる 岩戸 徹	たんいじかん 4単位60時間
じゅぎょうがいよう 授業の概要 (授業の目的)	しょうがいひとしんりしんたいきのう 障害のある人の心理や身体機能などの基礎的知識を習得するとともに、 せいかつしえんほうほうがくしゅうほんにんかぞくふくしゅういかんきょう 生活支援の方法について学習する。本人のみならず家族も含めた周囲の環境 にも配慮した支援・介護について学習する。		
じゅぎょうとうたつもくひょう 授業の到達目標 (学生の行動目標)	しょうがいいがくてきしんりてきそくめんきそちしきふか ・障害の医学的・心理的側面から基礎知識を深めることができる しょうがいとくせいおうかいじょうほうほうりかい ・障害の特性に応じた介助方法を理解することができる しょうがいひとかんれんせいどりかい ・障害のある人に関連した制度について理解できる		
じゅぎょうけいかく 授業計画	第1,2回 障がいとは？ 第3,4回 障がいの受容とストレングス、エンパワメント 第5,6回 肢体不自由とは？1 第7,8回 肢体不自由とは？2 第9,10回 視覚障がいとは？聴覚障がいとは？言語障がいとは？ 第11,12回 重複障がいとは？ 第13,14回 内部障がいとは？ 第15,16回 重症心身障がいとは？ 第17,18回 知的障がいとは？ 第19,20回 精神障がいとは？ 第21,22回 高次脳機能障がいとは？ 第23,24回 発達障がいとは？ 第25,26回 難病とは？ 第27,28回 総まとめ 第29,30回 定期テストと解説		
きょうかしよ 教科書	さいしんかいこふくししゅうせいこうざしょうがいりかいだいほんちゅうおうほうきしゅつぽん 「最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解第2版」中央法規出版		
さんこうしよ 参考書	てきじはいふ プリントを適時配布する		
せいせきひょうかほうほうきじゆん 成績評価の方法・基準	ひょうかほうほうしょうていき 評価方法：小テスト20%、定期テスト80% きじゆんてんいじょうてんいじょうてんいじょうてんいじょう 基準：S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59 てんいかいじょうごうかく 点以下) ※C以上を合格とする		
じゅぎょうりゅういてん 授業の留意点・ じゅぎょうがいがくしゅうかつどう 授業外の学習活動な ど	えんしゅうじっしせつきよくてきえんしゅうさんかつと 演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
きょういんしょうかい 教員紹介	りがくりょうほうしぐんまけんびょういんどうりんしょうけいけん 理学療法士として群馬県のリハビリテーション病院等での臨床経験をもち きょういんこうぎ つ教員が講義をします。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	基礎学習講座	竹内 克 鈴木 健二郎 千葉 真規子	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護職が使う専門用語について理解をして、実施において使用するために知識と対応を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ 基礎的な専門用語が理解できる ・ 専門的な用語の意味が理解できる ・ 実践において専門用語を適切に使用することができる		
授業計画	第 1 回～3 回 専門用語 介護技術 第 4 回～6 回 専門用語 医療的知識 第 7 回～9 回 専門用語 医療的知識 2 第 10 回～12 回 専門用語 介護の制度 第 13 回 感染について 第 14 回 介護保険まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書			
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価の方法：定期試験 80%、小テスト 20% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布プリントを使用して専門用語を身につける		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅡ	平田由紀子	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解し、チームの一員として働くための能力を身につける。 授業や演習を通じてマネジメントに必要な組織の運営管理・人材管理、それらに必要な基本的技術を習得できるように学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ チームマネジメントの基本となる考え方を知る ・ 介護実践のマネジメントを行う為に必要なチーム運営の基本を知る ・ 実践力向上の為に必要な人材育成の仕組みを理解することができる		
授業計画	第1回 組織のコミュニケーション 第2回 組織のコミュニケーション2 第3回 ヒューマンサービスとしての介護 第4回 チームマネジメント 第5回 介護実践におけるチームマネジメント 第6回 コメディカルチームと多職種への提案方法 第7回 ケアを展開するためのチームマネジメント 第8回 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 第9回 介護福祉職としてのキャリアデザイン 第10回 様々なツールと自己理解 第11回 介護福祉職のキャリア支援・開発 第12回 組織の目標達成のためのチームマネジメント 第13回 介護サービスを支える組織の機能と役割 第14回 人間関係とコミュニケーションの実践 第15回 修了試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループで様々な意見を交わしながら演習を行います。 自分を知る為に、普段から自分を客観視する練習をしてください。		
教員紹介	実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解Ⅱ	竹内克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・福祉サービス利用の基本となる「介護保険制度」と「障害者総合支援制度」についての知識を習得する。また介護実践上留意が必要な「個人情報保護制度」などに関する基礎的知識を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・「介護保険制度」及び「障害者総合支援制度」創設の背景と目的、その後の改正について説明することができる。 ・「個人情報保護法」創設の背景、目的を説明することができる。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 高齢者保健福祉の動向 第 2 回 高齢者保健福祉関連の法体系（老人福祉法など） 第 3 回 介護保険制度① 目的、保険者、被保険者、財源など 第 4 回 介護保険制度② サービス利用の流れなど 第 5 回 介護保険制度③ 介護保険サービスの種類と内容（1） 第 6 回 介護保険制度④ 介護保険サービスの種類と内容（2） 第 7 回 介護保険制度⑤ 地域包括ケア、まとめ 第 8 回 障害者保健福祉の動向 第 9 回 障害者保健福祉の法体系 第 10 回 障害者総合支援制度① 目的、財源、保険者、被保険者など 第 11 回 障害者総合支援制度② 自立支援給付（1） 第 12 回 障害者総合支援制度③ 自立支援給付（2） 第 13 回 障害者総合支援制度④ 地域支援事業 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	福祉経営	鈴木 健二郎	2 単位・30 時間
授業の概要 (授業の目的)	基本の法規をおさえたうえで安定した運営を行うことが利用者への利益にもつながることを理解し必要な法規と収支を出しながら運営をしていくための知識を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	法令を遵守して健全な運営をしていくことが正しいことであると理解し利用者の利益にもつながることを説明できるようになる。 リーダーとなったときに、必要な人材育成方法などが提示できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 グループをつくり演習・企画立案方法 第3回 在宅系サービスの運営について 第4回 施設系サービスの運営について 第5回～第8回 グループワーク演習 発表含む 第9回～第12回 グループワーク演習 発表含む 第13回～14回 演習 第15回 まとめ		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：発表 30%課題提出（企画・実施報告）70% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	思いだけで仕事をするとう失敗します。関連した法規などを遵守することが利用者の利益を守ることにつながることを理解できるように参加してください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士であり訪問介護事業所、居宅介護支援事業所の運営、サービス付き高齢者住宅および小規模多機能型居宅介護支援事業所の開設から運営まで関わる。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉	2 年生	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本 C	鈴木健二郎	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	協働する他職種の機能と役割を理解。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解。 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	チームケアの大切さを理解し利用者の支援へつなげることが出来る。介護事故だけでなく、情報漏洩などの防止の大切さと労働に関する法規などの知識を身に付け自分の身は自分で守る力を身に付ける。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 16 回 連携・協働に求められる能力 第 2 回 介護における安全の確保 1 第 17 回 〃 2 第 3 回 介護における安全の確保 2 第 18 回 〃 3 第 4 回 介護における安全の確保 3 第 19 回 保健医療福祉職の役割と機能 第 5 回 リスクマネジメントとは何か 1 第 20 回 〃 2 第 6 回 リスクマネジメントとは何か 2 第 21 回 多職種連携・協働の実際 第 7 回 リスクマネジメントとは何か 3 第 22 回 〃 2 第 8 回 感染症対策 1 第 23 回 健康管理の意義と目的 第 9 回 感染症対策 2 第 24 回 〃 2 第 10 回 多職種連携・協働の必要性 第 25 回 こころの健康管理 第 11 回 多職種連携・協働の必要性 第 26 回 こころの健康管理 2 第 12 回 多職種連携・協働の必要性 第 27 回 身体の健康管理 第 13 回 多職種連携・協働の必要性 第 28 回 労働環境の整備 第 14 回 まとめ知識の確認 第 29 回 労働環境の整備 2 まとめ 第 15 回 中間試験 第 30 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ第 2 版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 50 パーセント 定期試験 50 パーセント 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施しますので積極的な参加をしてください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 E I	平田由紀子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として、その人らしい生活が継続できるよう個々の状態に応じた家事支援が援助できるよう、基本的な知識、技術を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	決められた時間内に決められたサービス内容を行うことができる 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を見極めながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第 1 回 家事の意義と重要性 第 2 回 自立した家事の一連の流れ 第 3 回 家事支援技法 調理① 第 4 回 家事支援技法 調理② 第 5 回 家事支援技法 洗濯① 第 6 回 家事支援技法 洗濯② 第 7 回 家事支援技法 掃除・ごみ捨て 第 8 回 家事支援技法 裁縫 第 9 回 家事支援技法 衣類・寝具の衛生管理① 第 10 回 家事支援技法 衣類・寝具の衛生管理② 第 11 回 家事支援技法 買い物 第 12 回 家事支援技法 家庭経営 第 13 回 家事の介護における多職種との連携 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士講座 6 生活支援技術 I 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験 50% 提出課題 50% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元の見えないシャツを着用し、爪は短く切り、髪はまとめ、衛生管理留意すること		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術 EⅡ	浦島秀之	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	人生最終段階にある人と家族をケアするために支援者として、利用者それぞれの経過を理解し状況に沿った支援が実践できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	延命治療, 緩和ケア, リビングウィル等、尊厳の保持とは何かを学ぶ。終末期の心身状況を理解、QOLを高める身体・生活援助と、共感、呼応する対話で精神的サポートができる。 在宅・施設ターミナルケアでの多職種連携、臨終時の介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割を理解する。		
授業計画	第 1 回 終末期の介護の意義と役割① 第 2 回 終末期の介護の意義と役割② 第 3 回 終末期ケアが行われる現場① 第 4 回 終末期ケアが行われる現場② 第 5 回 人生最終段階におけるアセスメントの視点 第 6 回 本人・家族が死を受容するまで 第 7 回 終末期の心身状況 QOL を高める身体生活援助 第 8 回 終末期の利用者と家族の心理とサポート 第 9 回 死が近づいたときの介護 第 10 回 地域ごとの埋葬習慣 第 11 回 臨終期の対応技術演習とグリーフケア① 第 12 回 臨終期の対応技術演習とグリーフケア② 第 13 回 多職種との連携 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 70% 課題提出 30% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	母国や地域ごとの埋葬習慣を調べておきましょう。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅱ	竹内克	4 単位 60 時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護過程の展開における計画の作成方法および評価における留意点等を理解する ・介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・計画作成、評価時の留意点を説明できる ・ケアマネジメントと介護過程の関係性を説明できる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割を説明できる		
授業計画	第 1 回 介護過程の全体像 第 2 回 アセスメント 第 3 回 介護計画の立案 第 4 回 介護計画の実施 第 5 回 計画の評価 (1) 第 6 回 計画の評価 (2) 第 7 回 再アセスメント 第 8 回 事例で学ぶ介護過程 (情報収集) 第 9 回 事例で学ぶ介護過程 (情報収集) 第 10 回 事例で学ぶ介護過程 (情報収集) 第 11 回 事例で学ぶ介護過程 (解釈等) 第 12 回 事例で学ぶ介護過程 (解釈等) 第 13 回 事例で学ぶ介護過程 (解釈等) 第 14 回 まとめ 第 15 回 中間試験 第 16 回 事例で学ぶ介護過程 (介護計画の立案) 第 17 回 事例で学ぶ介護過程 (介護計画の立案) 第 18 回 事例で学ぶ介護過程 (介護計画の立案) 第 19 回 事例で学ぶ介護過程 (介護計画の立案) 第 20 回 事例で学ぶ介護過程 (評価) 第 21 回 事例で学ぶ介護過程 (評価) 第 22 回 ケアマネジメントと介護過程の関係性 第 23 回 ケアマネジメントと介護過程の関係性 第 24 回 チームアプローチ 第 25 回 チームアプローチ 第 26 回 情報収集 第 27 回 解釈・関連付け・統合化 第 28 回 計画の立案 第 29 回 実施・評価 まとめ 第 30 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 「最新・介護福祉士養成講座 1～8、11～14」も適宜使用		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験 45% 定期試験 45% 提出課題 10% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習復習として要点をまとめて文章を作る練習をしておくこと。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉	2 学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅲ	竹内 克	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	・実習における個別事例の展開を振り返り、新たな課題、介護計画の立案を通し、介護過程を継続的に進んでいく意義を理解する。 ・事例を通し、様々な暮らしのあり方や考え方があることを理解し、そこに関わる介護福祉士の重要性を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・再アセスメント、計画の作成を通し、介護過程の展開の全体像を理解できる。 ・介護過程の継続的な展開の必要性を理解できる ・介護過程の展開を通し、自己の思考傾向を理解することができる		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション/介護実習Ⅱの振り返り① 第 2 回 介護実習Ⅱの振り返り②（評価・再アセスメント） 第 3 回 介護実習Ⅱの振り返り③（再アセスメント） 第 4 回 介護実習Ⅱの振り返り④（介護計画の再作成） 第 5 回 介護実習Ⅱの振り返り⑤（介護計画の再作成） 第 6 回 事例で考える介護過程の展開① 第 7 回 事例で考える介護過程の展開② 第 8 回 事例で考える介護過程の展開③ 第 9 回 事例で考える介護過程の展開④ 第 10 回 事例で考える介護過程の展開⑤ 第 11 回 事例で考える介護過程の展開⑥ 第 12 回 事例で考える介護過程の展開⑦ 第 13 回 事例で考える介護過程の展開⑧ 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 「最新・介護福祉士養成講座 1～8、11～14」も適宜使用		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 60％ 課題提出 40％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習後に身に付けた専門職としての視点やあるべき支援方法などを振り返りながら学習します。実習中で学んだ内容を予習復習しておくこと。		
教員紹介	臨床経験 8 年以上の実務経験のある介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅲ	竹内克	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	やむなく施設で生活する利用者がどのような生活を望み生活しているのかを多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解し、専門的・計画的に介護サービスを提供できる能力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	個々の利用者の心身の状況に応じた介護実践の必要性を理解できる。施設でのサービス内容を理解し、介護過程の展開を通じて対象者を理解し、本人が望んでいる生活と自立を支援するための介護過程を理解する。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 実習ⅠとⅡの違い 第 2 回 介護実習Ⅰの振り返り 第 3 回 介護実習の流れ 第 4 回 介護実習先施設の種類の理解（特別養護老人ホーム・老人保健施設） 第 5 回 介護実習先施設の種類の理解（特別養護老人ホーム・老人保健施設） 第 6 回 学生作成書類①（実習前） 第 7 回 学生作成書類②（実習中） 第 8 回 学生作成書類③（実習後） 第 9 回 実習目標・個人調査票作成 第 10 回 実習目標・個人調査票作成 第 11 回 実習目標・個人調査票作成 第 12 回 実習場面を想定した総合演習 第 13 回 実習場面を想定した総合演習・実習前オリエンテーション 第 14 回 まとめ 第 15 回 定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 70％ 提出課題 30％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護過程で学んだことを実践できるように復習をしておくこと。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅳ	鈴木 健二郎	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護についての 2 年間の総復習として自己課題を明確にし、知識・技術だけでなく介護実習での介護過程を通じて実践研究の意義とその方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	習得すべき介護技術ができるようになる。 自分自身の介護観を構築することができる。 介護実習での総まとめとして介護過程の展開方法を実践し理解できる。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 事例発表方法など 第 2 回～第 10 回 事例発表資料作成等 小テスト含む 第 12 回～第 15 回 事例発表会 (11 月予定)		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：発表 30% 提出課題 30% 小テスト 40% 基準：S (90 点以上)、A (80 点以上)、B (70 点以上)、C (60 点以上)、D (59 点以下) ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	知識、技術の総復習として疑問点を克服しておきましょう。 実習指導教員と事例の書き方について相談してください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2 学年	前期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅱ	鈴木健二郎 竹内克 浦島秀之	6 単位 240 時間
授業の概要 (授業の目的)	他職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、他職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。介護か知恵の展開を通じて対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	介護過程の一連の流れでプロセス重視の意味を理解して個別援助計画を立案し支援実施後の評価を行い、必要があれば再計画を立てることができるようになる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかりと学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 <u>実習Ⅱ 2 学年時 7 月～9 月 老人福祉施設・老人保健施設等 30 日間</u> <u>*実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照</u>		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護実習第 2 版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：実習終了後の評価表 60％ 課題提出 40％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士、他		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	2 年前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅡ (2)	千葉 真規子 藤枝 幹大	2 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援を行う際に必要な知識を理解し、介護の場面に応じた観察ができるように根拠を学ぶ。生命を維持する仕組みについて学び、基本的なバイタルサインの測定ができるようになる。人生の最終段階にある人とその家族を支援するための基礎的な知識を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる ・基本的なバイタルサインの基礎知識を理解し、測定ができる ・終末期の状態について理解し医療職との連携を考えることができる		
授業計画	第1回 こころのしくみ① 第2回 こころのしくみ② 第3回 こころのしくみ③ 第4回 バイタルサインの基礎知識 第5回 バイタルサインの測定 第6回 フィジカルアセスメント 第7回 薬の知識 第8回 終末期の基礎知識 第9回 終末期のこころの理解 第10回 終末期のからだの理解 第11回 終末期での医療連携 第12回 終末期での家族ケア 第13回 科目のまとめ製作 第14回 まとめ発表 第15回 定期試験 1年後期分と2年前期分で4単位とする		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ」 第2版 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 100% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下） ※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。		
教員紹介	・臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師 ・心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	後期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	医療的ケア	森田 章子 他	4 単位 81 時間
授業の概要 (授業の目的)	介護職でもできる医療的ケアについて理解をして、安全・適切に実施するために必要な知識・技術を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・医療的ケアに必要な基礎知識が理解できる ・喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識及び実施手順・留意点が理解できる ・演習にて、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養・救急蘇生法の確実な手技が習得できる		
授業計画	第 1 回 医療的ケアとは 第 18 回 喀痰吸引実施手順解説③ 第 2 回 安全な療養生活 第 19 回 喀痰吸引実施手順解説④ 第 3 回 救急蘇生法① 第 20 回 喀痰吸引実施手順解説⑤ 第 4 回 救急蘇生法② 第 21 回 喀痰吸引実施手順解説⑥ 第 5 回 感染予防① 第 22 回 経管栄養概論① 第 6 回 感染予防② 第 23 回 経管栄養概論② 第 7 回 健康状態の把握① 第 24 回 経管栄養概論③ 第 8 回 健康状態の把握② 第 25 回 経管栄養概論④ 第 9 回 喀痰吸引概論① 第 26 回 経管栄養概論⑤ 第 10 回 喀痰吸引概論② 第 27 回 経管栄養概論⑥ 第 11 回 喀痰吸引概論③ 第 28 回 経管栄養実施手順解説① 第 12 回 喀痰吸引概論④ 第 29 回 経管栄養実施手順解説② 第 13 回 喀痰吸引概論⑤ 第 30 回 経管栄養実施手順解説③ 第 14 回 喀痰吸引概論⑥ 第 31 回 経管栄養実施手順解説④ 第 15 回 喀痰吸引概論⑦ 第 32 回 経管栄養実施手順解説⑤ 第 16 回 喀痰吸引実施手順解説① 第 33 回 演習に向けて 第 17 回 喀痰吸引実施手順解説② 第 34 回 定期試験 講義とは別に計 20 コマ（第 35 回～第 54 回）を演習とする。 演習には 喀痰吸引 口腔 5 回以上 経管栄養 胃ろう 5 回以上 鼻腔 5 回以上 経鼻経管栄養 5 回以上 気管カニューレ 5 回以上 救急蘇生法演習 1 回以上 を含むものとする。 ※講義時間 51 時間・演習時間 30 時間、合計 81 時間		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」第 2 版 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 80％ 提出課題 20％ 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの講義・演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の実務経験を持つ看護師		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	総合介護福祉論	竹内克、鈴木健二郎 他	6 単位 90 時間
授業の概要 (授業の目的)	専門的知識を確実に持った介護福祉士になるために必要な知識を全般的かつ確実に定着させる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・教科内容についての理解度の評価を行い、知識の定着と理解を深める ・介護福祉士としての知識全般の定着と理解を深める。		
授業計画	第 1 回～第 3 回 履修科目の模擬問題① 第 4 回～第 6 回 模擬問題①の解説 第 7 回～第 9 回 履修科目の模擬問題② 第 10 回～第 12 回 模擬問題②の解説 第 13 回～第 15 回 履修科目の模擬問題③ 第 16 回～第 18 回 模擬問題③の解説 第 19 回～第 21 回 履修科目の模擬問題④ 第 22 回～第 24 回 模擬問題④の解説 第 25 回～第 27 回 履修科目の模擬問題⑤ 第 28 回～第 30 回 模擬問題⑤の解説 第 31 回～第 33 回 履修科目の模擬問題⑥ 第 34 回～第 36 回 模擬問題⑥の解説 第 37 回～第 39 回 履修科目の模擬問題⑦ 第 40 回～第 42 回 模擬問題⑦の解説 第 43 回～第 45 回 自己分析と傾向対策		
教科書			
参考書	必要時プリントを配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：授業内での小テスト 50%、課題提出 50% 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	問題集に取り組むことで自身の苦手分野の克服に努めて下さい。 模擬試験を 2 回実施しますので、それにより日程の変更があります。		
教員紹介	臨床経験 10 年以上の介護福祉士、臨床経験 8 年以上の介護福祉士など		

2025 年度 多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2 学年	2 年後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	家庭科	平田由紀子	1 単位 30 時間
授業の概要 (授業の目的)	日常生活で自立した生活を支えるために介護者として必要な知識・技術を学びます。楽しい日常生活を送れるように、生活の楽しさを理解します。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ 基本的な縫物の知識と技術を習得する ・ 日本古来の行事や季節を感じさせる食事を学ぶ ・ 食事や捕食の作り方を習得調理できる ・ アイロンの使用方法を学ぶ		
授業計画	第 1 回 基本的な縫物技術① 第 2 回 基本的な縫物技術② 第 3 回 基本的な縫物技術③ 第 4 回 新聞紙で作るエコバッグ① 第 5 回 新聞紙で作るエコバッグ② 第 6 回 おいしいお茶の入れ方 第 7 回 調理の基本技術 第 8 回 日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう① 第 9 回 日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう② 第 10 回 日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう③ 第 11 回 日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう④ 第 12 回 栄養のある献立を考える① 第 13 回 栄養のある献立を考える② 第 14 回 栄養のある食事を楽しむ① 第 15 回 栄養のある食事を楽しむ②		
教科書	適宜プリント配布		
参考書			
成績評価の方法・基準	評価方法：授業中に作成した成果物・課題の提出 基準：S（90 点以上）、A（80 点以上）、B（70 点以上）、C（60 点以上）、D（59 点以下） ※C 以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	調理実習時には体調管理・衛生管理に努め、爪は短く切りましょう。エプロン・三角巾持参のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		